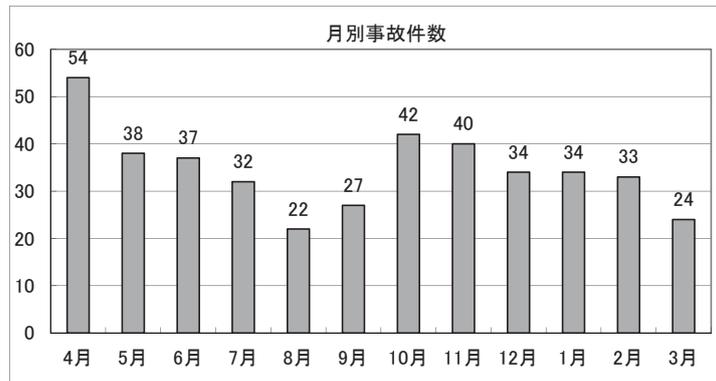




■事故件数の事例紹介

下のグラフは、ある日本テニス事業協会の加盟スクールの事故件数です。平成18年から平成27年の各月別発生

件数（事故報告書が提出された件数）を表しています。会員数は約6,000名。インドア施設とアウトドア施設を運営する事業者の事例となります。



月よっての事故発生件数に波があります。新規の会員の多い4月や10月に件数が多くなっています。皆様はどのように分析なさいますか？どのように対応なさるのでしょうか？

4月は54件、平均して1年に5.4件発生確率は0.02%です。10年で417件の報告がありました。1年平均とすれば41.7件会員数6,000名が50週通ったと仮定すると発生件数は0.14%。多いのでしょうか少ないのでしょうかピンとこない感じがします。

それでは、報告の無い微細事故はどのくらいあったのでしょうか？

ハインリッヒの法則（1：29：300）から計算すると12,093件の微細事故つまりは1年に1,209件、さらに事故にはならなかった異常事態が125,100件、1年に125,100件あったことが推測されます。一月100件以上！もの凄く多くありませんか！？ヒヤリ！ハッ！とした異常事態を「ああ怪我しなくてよかった！」とそのまま見過ごさずに、しっかりとスタッフで話し合い、異常事態の改善に取り組みましょう。多くのお客様に安心安全にテニスを楽しんでいただく環境作りは我々事業者にとって最も重要な仕事ですね。

～気をつけましょう。この季節～

いよいよ春のテニスシーズン到来です。

しかし、まだまだ気候も不安定な季節の変わり目であり、新入会員様や新人スタッフも増える時期です。

運営ルール確認、スタッフ研修等、より慎重を期す必要があります。

<スタッフ・レッスン>

1. 新人スタッフが増える時期です。安全管理、避難誘導についてしっかり研修しましょう。AED使用方法についての研修も実施しましょう。

この時期に全スタッフにあらためて研修することは非常に重要です。

2. 季節の変わり目は寒暖の差も大きくなります。レッスン中の水分補給や会員様の体調へのケアについて、コーチに徹底しましょう。
3. 準備体操をしっかりと。暖かくなってきても身体を徐々に慣らしていく事は一年を通じて同じです。レッスンに遅れて参加のお客様にも必ず体操をさせましょう。

<施設>

1. 災害時の緊急避難路や避難場所を確認しましょう。
2. 消火器や消火栓の設置場所を確認しましょう。
3. AEDの設置場所を確認しましょう。
バッテリーの状態、パッドの使用期限も確認しましょう。
4. 救急箱の中身を確認し、足りないものは補充しましょう。
5. 最寄りの病院リストを再確認しましょう。
定休日や診療時間も確認し、記入しましょう。
6. 強い風が吹きやすい時期です。荒天後は施設の状態を細かく確認しましょう。

様々なことが新しくなる春です。今一度、基本項目の確認をしましょう！